

サービス名:

スノーティフ (Snow (雪)+ Notification(通知)=スノーティフ)

概要:

雪が降り積もっていたらいつもよりも早く起こしてくれるアプリ

PR ポイント:

朝起床して大量に降り積もっていたら出勤、通学のためにまず除雪をしなければならない。けれど朝の時間は限りあるものだ。除雪を行う代わりに朝食等を犠牲にしなければならないこともある。また、朝食を食べない人でも毎朝ギリギリに起きている人は遅刻してしまう可能性もある。

これを解決するために行えることは、前日の天気予報をチェックしておき積雪の可能性がある場合には早起きをする、前日の夜から降り積もっている場合にはある程度除雪を行い次の日の負担を減らす、朝食・朝の支度を妥協する…等が考えられる。上の3つの意見なら早起きすることがいい考えだと思った。そこで私は雪の日のみ目覚ましを一定時間早く鳴らしてくれるアプリのアイデアを考えた。

けれど会津若松市のオープンデータを見てみると「積雪」に関しては1つしか公開されていない(<http://www.data4citizen.jp/app/users/openDataTop/show/sasukene>)。昨年(2015)最優秀賞の「さすけね」からのデータだった。ここで私の感じた「さすけね」の良い点と問題点を記述する。良い点は誰でも利用できるようにした点だと考える。「さすけね」はマルチデバイスに対応しており、データの入力はアナログ電話でも行うことができるため誰にでもデータを入力することができる。しかし問題点もある。問題点は利用者がいないと機能しないことだ。更にデータを up するモチベーションが見つからないとも感じる。そこで私は「さすけね」の機能を「除雪車」にも取り組むことを提案する。

「さすけね」の機能を除雪車に搭載させることにより、「除雪しているところ=雪が積もっているところ」なため周囲の積雪情報に使用することができる。更に積雪情報のパラメータに除雪を追加することで除雪車が作業済みなのか作業中なのか作業予定なのかもリアルタイムで更新することができる。これにより市内の渋滞予測等にも使えると考えるため、使用用途が多岐にわたり考えることができる。

しかし課題も多く存在する。例えば除雪車が動作してから機能が使えるため動作前に出勤する人に役立てることができない。また、住んでいる地域によって除雪車の到着時間に差が出てしまうためこれもまた使用できない人が出てきてしまう。除雪車 1 つ 1 つに通信機能を備えることは初期コストも掛かる上にランニングコストまでかかってしまう。近年 iot が流行っておりその手のモジュール等は多く存在するが何台も運用するとなると微々たる金額ではないと予想できる。一番の問題はせつかく投資して設備したとしても冬の期間しか使用しないという点だ。この点はかなりもったいないような気がする。1次審査を通過し

平成 28 年度 会津若松市オープンデータコンテスト-アイデア部門

作成者：Yuki

た際にはぜひ上記の課題について大学生の立場から考えてみようと思う。

上記の内容を砕いて説明しているファイル「アイデアスライド.pdf」も合わせて観覧し、
審査の対象としてください。(元データ「会津若松市 2016.pptx」)